

4 日山の植物

ないコナラ林であったとみられる。ただし、尾根筋にはアカマツが優勢であり、谷筋にはイヌブナが多かったであろう。

阿武隈山地の多くの植物群は、このような自然林が長い間の人為を受けて変化したものである。いま日本の経済はその版図を世界に拡げそれに伴って人々の生活も、山野の資源の価値も内容も大きく変わりつつある。しか



〔スズタケ〕 人為が入った所では急速に消滅するササの仲間。稈をすっかり覆っている葉梢に剛毛が密生している。

し、以前は、この草深い山ふところではわれわれの祖先達の生業が真剣に展開されていた、都会の生活もその産物による所が多かった。その事実は、人為によって変貌した植物群のなかに刻まれている。

標高1057mの日山は、北阿武隈第一の高峰であり、そのなだらかな山容は、北阿武隈のどこから見ても天空に接して横たわる。それは、我々の父母が、祖父母が生活の拠りどころとした自然の象徴である。日山はふるさとの山である。

日山神社と三匹獅子

日山の路は、登り口でいえば、田沢、茂原、移、葛尾、南津島、山木屋の6ヶ所がある。この6本の路は、途中で茂原道と移道が、また葛尾道と南津島道が合流し、4本となって頂上で一点に合流する。その頂上は平坦な広い芝原になっており、3つの社がそれぞれ勝手とも思える方向を向いて建てられている。それは、田沢、茂原、葛尾の社で、それぞれの道の終点に、それぞれの方向を向いて建てられているのである。

日山は準平原に立つ残丘である。その頂上